

離島漁業再生支援事業による地域活性化

北薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

甌島は、複雑な地形と対馬海流などにより豊富な漁業資源や磯根資源に恵まれ、キビナゴ流刺網、定置網、カジキ流網を主体に網漁業や一本釣り漁業等が盛んである。

しかしながら、当地域における近年の漁業経営環境は、資源の減少傾向、高齢化、魚価低迷、燃油高騰など、厳しい状況にある。

このため、甌島の8漁業集落で、支援事業を活用し、沿岸で漁獲される水産物を利用した新商品開発や藻場造成、種苗放流等の活動に取り組むことにより、地域水産物の付加価値向上と地域漁業の経営安定、活性化を図る。

【普及の内容・特徴】

- 1 平成22年度から設立した8漁業集落(鹿島、青瀬集落は平成23年度より)を離島漁業再生支援事業第2期(水産庁)の活用により指導・育成を図った。
- 2 当事業では、定期的に各集落を巡回し、特にスジアラ中間育成・放流、藻場造成、新商品開発、販売促進活動等について重点的に指導した。
- 3 里町漁業集落が試みたスジアラの中間育成及び放流については、水技センター等と連携を図りながら、中間育成技術の確立及び普及に努めた。

【成果・活用】

- 1 スジアラ中間育成を、22年度に行った「スジアラの生態」についての勉強会及び同年度に行ったクエ中間育成での経験を踏まえ里地区で行ったところ、現場での中間育成が困難と言われている中、約7割という高い歩留まりで放流まで行う事が出来、漁業者の中間育成技術向上が図られた。
- 2 瀬々野浦漁業集落による新商品開発では、未利用資源(シイラなど)を用いた伝統保存食(こもまき)の試作及び試食を生活改善グループ等と連携して行う事で、お互いの交流が深まるとともに、漁村地区の活性化が図られた。
- 3 長浜漁業集落による新商品開発では、24年度からの試験販売を念頭に置き、鹿児島大学と連携しながら、未利用資源であるタカエビ頭部を用いた「ふりかけ」、「塩辛」を試作し、漁獲物の付加価値向上を図った。
- 4 里町漁業集落による販売促進では、甌川内おさかな祭りと物産館(道の駅樋脇)との連携による直接販売が地域に定着し、甌島産キビナゴ等のPRが図られた。
- 5 平良漁港周辺における藻場造成では、食害対策としてウニ駆除、囲い網、ウニフェンス等の手法を普及することが出来た。
- 6 手打漁港内における藻場造成では、食害対策として囲い網と移植(海藻を生長させたブロックを適地に移動)による藻場造成の手法を普及することが出来た。

【平成23年度 甌島 漁業集落活動実績】

集落名	主な活動実績
里町 (5,440千円)	キビナゴ産卵場調査 (6月), 道の駅販促活動 (6月), スジアラ中間育成・放流 (10～11月), 藻場調査・ブロック設置 (1～2月)
平良 (4,080千円)	お魚まつり開催 (4月), オニヒトデ駆除 (8月), 藻場調査・ブロック設置 (1～2月), ウニフェンス設置 (3月)
鹿島 (2,040千円)	オニヒトデ駆除 (9月), 新商品開発 (9～12月), イカシバ投入 (3月)
長浜 (4,080千円)	イカシバ設置 (4月), タカエビ新商品開発 (9月), 魚食普及活動 (3月)
手打 (5,440千円)	イカシバ・産卵礁設置 (4月), サメ駆除 (6～12月), とれたて市 (2月) 藻場調査・ブロック設置 (1～2月)
青瀬 (1,904千円)	イカシバ・産卵礁設置 (4月), 朝市開催 (11～1月), 魚食普及活動 (2月)
片野浦 (1,632千円)	イカシバ・産卵礁設置 (4月), 新商品開発 (11～1月)
瀬々野浦 (1,768千円)	イカシバ・産卵礁設置 (4月) トコブシ放流 (5月), 魚食普及活動 (8月), 新商品開発 (2～3月)



甌川内お魚まつり



スジアラ中間育成



伝統保存食「こもまき」



藻場造成 (囲い網)